

沖縄南部医療センター・こども医療センター 小児科専門研修プログラム 2021



採用のタイムラインと手順

- 当プログラムへの小児科専攻医としての採用については、最低限1日の当科見学とその際の面接を条件としています。
- 手順：
見学・面接
↓
応募期間(9月～10月頃予定)に、小児科学会のホームページ「専攻医登録システム」から応募
↓
採用期間(12月頃予定)終了後、「専門研修プログラムシステム」より、採用のメールが届く

当科小児科専門研修プログラム2021
全体的な紹介

沖縄の医療



- 東京から1500km南、半径300kmの琉球列島
島嶼県、人の住む多くの離島をかかえる
→プライマリケア医療
- 人口145万、まだ人口増加、高出生率
出生率は全国平均の2.4倍
→小児医療
- 戦後の深刻な医師不足・米国統治の歴史
県(旧琉球政府)を頂点とした医療資源供給体制の継承・残存
→ER型救急、地域医療志向の臨床研修

沖縄県立南部医療センター・こども医療センター

- 2006年、県立那覇病院(市中総合病院+循環器病センター機能)の建て替えにともない、「初期から3次までの24時間救急医療」、「離島・僻地支援」、「沖縄県完結型周産母子・小児医療」の提供の3つの目的で新開設
- 24時間初期~3次のER型救急、総合内科、臨床研修病院、周産母子・こども病院の各機能を新しく併設した総合病院
- 434床



成人
総合受付

病院概要



1階成人外来



小児外来
受付

病院概要

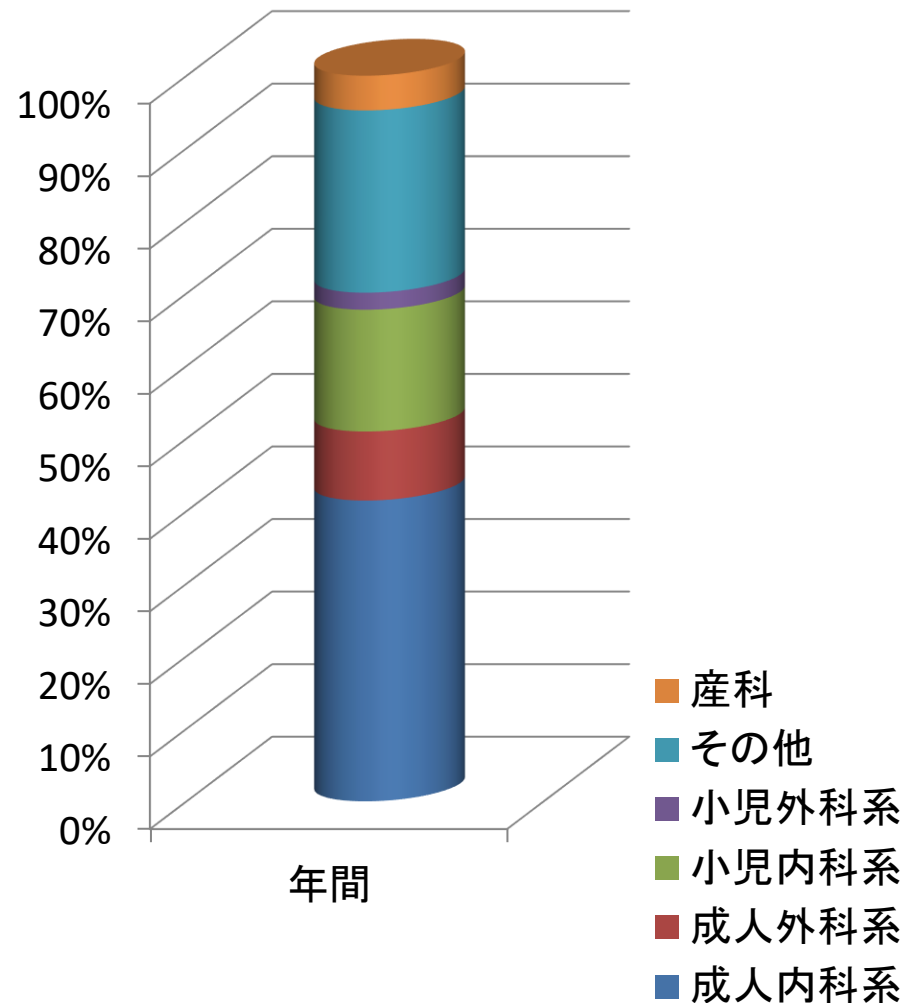


小児外来 総合受付

※各種コンサート等
イベント会場としても利用

統計概略-外来

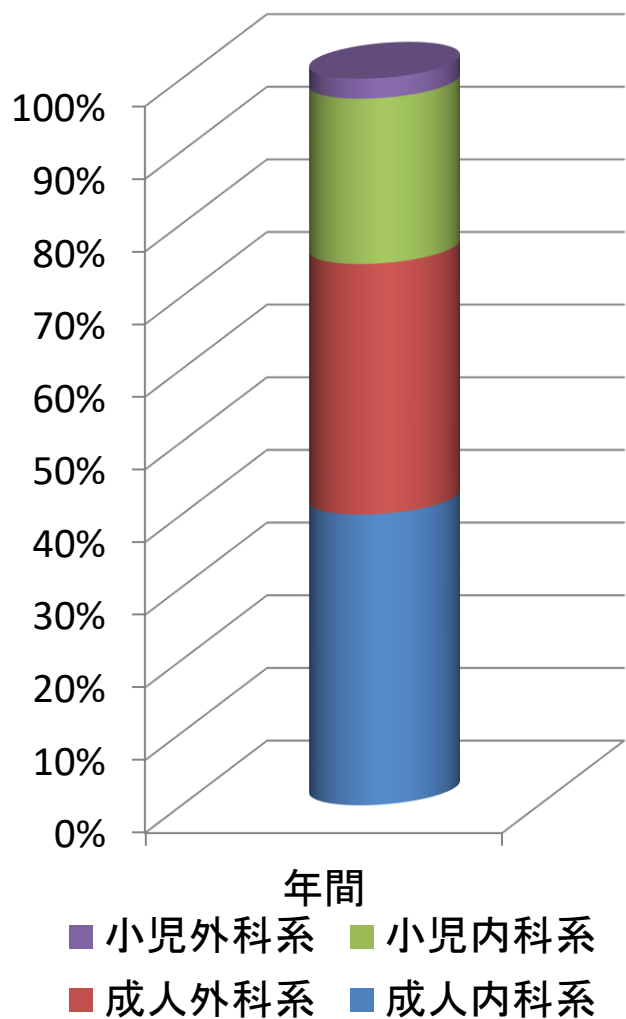
令和元年度



外来患者数	(年間): 157,320人
成人内科系	65,204人
成人外科系	14,975人
小児内科系	26,403人
小児外科系	3,693人
その他	39,510人
産科	7,535人

統計概略-入院

令和元年度



入院患者数	(年間) : 145,419人
成人内科系	64,775人
成人外科系	27,706人
産婦人科	11,547人
小児内科系	31,526人
(うち新生児科)	(13,608人)
小児外科系	4,746人
(うち小児外科)	(1,126人)
(うち小児心外)	(1,934人)
その他	5,119人

統計概略-ER

令和元年度

ER受診者数	(年間) : 37,132人	(月) : 3,094人
うち成人	15,784人	1,315人
小児	21,348人	1,779人

救急搬送数	(年間) : 4,882人	(月) : 406人
うち成人	3,175人	264人
小児	1,707人	142人

当院概要 (1)

2020年4月現在

成人診療部門

- 救命救急センター： 初期~3次随時対応 **指導医11名、専攻医3名**
- 成人診療： 総合内科(初期研修医教育の中心)、
神経内科、呼吸器科、循環器科、消化器科、腎・リウマチ科、
血液内科、一般外科、心臓外科、整形外科、脳外科、形成外科
皮膚科、産婦人科(周産期病床+MFICU30床)、眼科、麻酔科
歯科口腔外科、耳鼻咽喉科、精神科、リハビリ科
医局員 145名

当院概要(2)

2020年4月現在

こども医療センター部門

- サブスペシャルティ中心の小児専門病院＋24時間初期から3次までの救急小児受け入れ (2016年4月:小児救命救急センター指定)
(平日、土日祭日を問わず救急受診患者の70%は小児)
- NICU30 (NICU 10床、GCU 20床)、PICU8、小児専門病床66
- 小児医療系指導医・・・総合診療7、循環器6、新生児7、腎臓3、血液・腫瘍4、神経1(児童精神兼任)、内分泌・代謝2、感染症1、集中治療4[ここまで小児内科系で35]
外科系: 小児心臓外科3、小児外科3、小児整形外科2、整形外科3、脳外5、形成外科1、小児形成外科2、小児麻酔科5、麻酔科4

当院概要 (3)

2020年4月現在

臨床研修

- 初期臨床研修医
 - 1学年定員15名 × 2学年
 - 全国各地から応募、閥なし。
- 小児科専攻医
 - 全国各地から応募、閥なし、院内外から平等に採用
 - 2年は当院で研修、1年は北部・宮古・八重山で勤務
 - 過去実績：年平均4～5人の入職、次のスライド参照

過去11年間(2008~2020)の小児科専攻医採用状況

	南部医療センター・ こども医療センター	中部病院	合 計
平成22年	4	0	4
平成23年	8	3	11
平成24年	6	1	7
平成25年	7	2	9
平成26年	3	1	4
平成27年	6	0	6
平成28年	2	1	3
平成29年	3	1	4
平成30年	7	3	10
令和元年	4	0	4
令和2年	3	1	4
合 計	53	13	66

地域への派遣、その後のサブスペシャリティ研修

当院小児科専門研プログラム入職者のうち

- 60名：宮古・八重山・本島北部、：県立中部病院、：当院NICU(離島充足時)
- 60名の宮古・八重山・本島北部への派遣者のうち23名が2年目以降も継続して勤務し地域医療へ貢献(勤続2年:22名、3年:5名)
- その後、さらなる国内外留学*での研鑽ののち、沖縄県内小児科指導医：11名

* 国立神経精神(神経)・国立成育(集中治療、麻酔)・阪大小児(内分泌)・都立小児(児童精神、救急、感染症、集中治療)、熊本日赤(集中治療)・東邦小児(新生児)・琉大小児(血液)・埼玉小児(免疫、消化器、血液)・北米(トロント[循]、ダラス[リ])・済生会横浜(小児消化器)・大学院(タイ/マヒドン大[感]、英/ロンドン大[公])・大阪府立母子(新生児)・鹿児島市立(新生児)・あいち小児(アレルギー)・琉大放射線
兵庫県立こども病院(総合診療科)・生涯クリニックさっぽろ(在宅医療)、スーダン(国境なき医師団)、福岡徳洲会(救急)

当院の医師・当院で育てたい医師4つの柱と16の指標

(400人を超える当院内外医療関係者の意見を整理分類し2012年8月策定, 2015年改訂)

当院HP <http://www.hosp.pref.okinawa.jp/nanbu/nanbu-kensyu/html/pdf/greeting/oncmc.pdf>

I. 診療における問題解決能力 Problem Solving (PS)

1.患者管理、2健康増進、3.継続診療、4.患者・家族の視点

II. 医療安全と品質保証に取り組む姿勢 Safety and Quality (SQ)

5.継続学習と研究心、6.限界の把握と相談、7.教育、8.組織改革

III. 対人関係の構築と連携力 Interpersonal capability and Teamworking (IT)

9.対患者・家族、10.対チーム・院外、11.リーダーシップ

IV. 人間力(プロフェッショナル) Professional (Pro)

12.自己管理、13.社会人、14.責任感、15.キャリアパス構築、16.社会啓発

当院における小児科専門研修の理念

- 理念：「島で、最低1年、1人でやれる小児科医」を育てる院内での2年間の研修ののち、1年間、離島・地域(本島北部・宮古・八重山)の県立病院に地域小児総合診療の研修の一環で通年で派遣され独り立ちのシミュレーションを行う。その1年間は救急・空輸を含む搬送・入院・外来・在宅連携などのトータルケアができるジェネラリストとして機能しつつ継続研修を積む。
- 上記の目的のために救急・入院・外来・小児専門科診療(総合診療、新生児、集中治療、臓器専門診療)のすべてをローテーション。

当プログラム小児科研修 2021

1年次(PGY-3)・2年次(PGY-4)

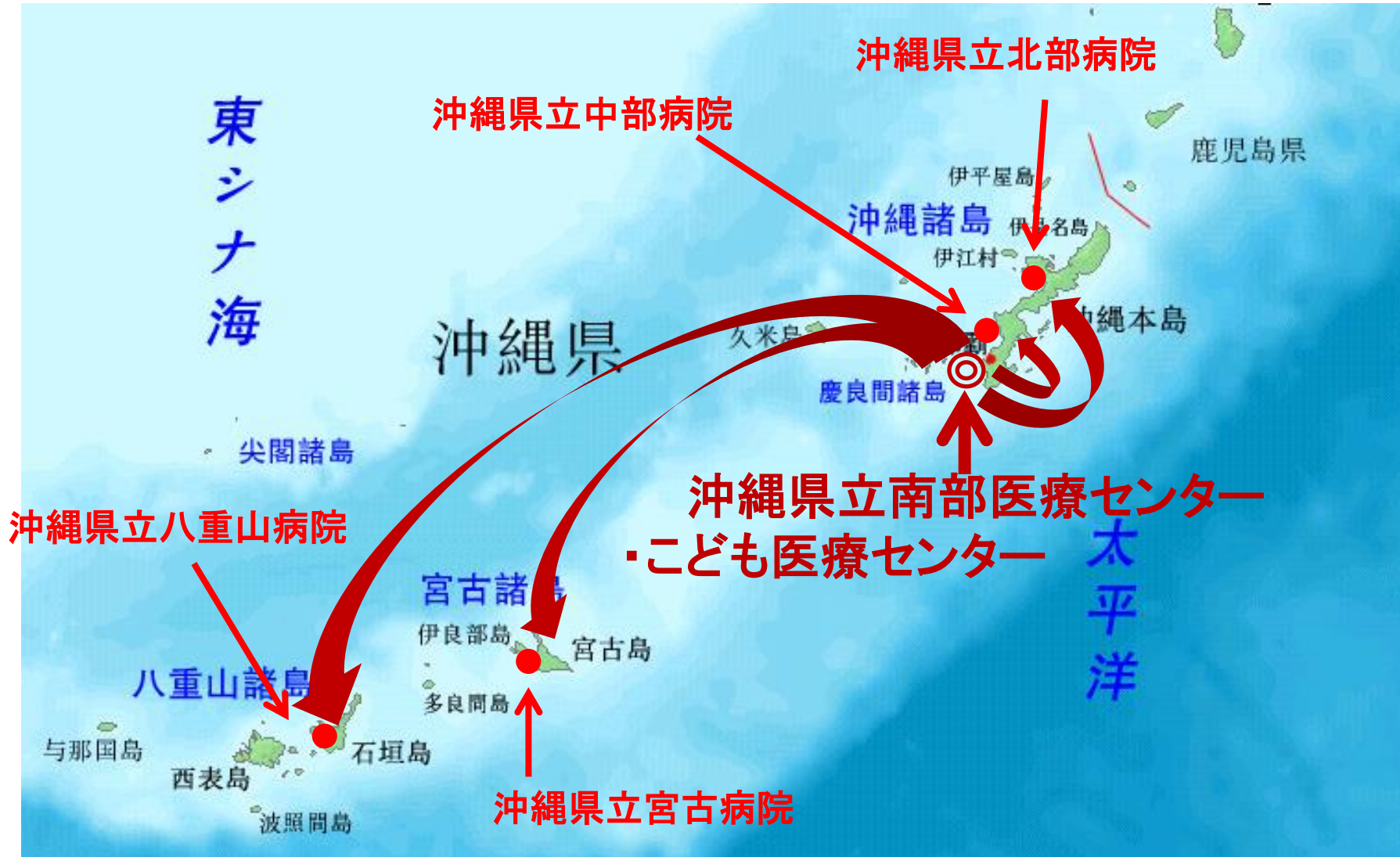
入院診療

- **総合診療と新生児診療が研修の柱(宮古・八重山・北部のニーズによる)**
2年間で総合診療 6か月以上、NICU6か月(3か月×2)
※総合診療とNICUはなるべく屋根瓦
- 循環器、血液、腎臓・内分泌、小児集中治療(原則3年次後半か4年次)の各科は2年間で2か月×1のローテーション
- 神経(+児童精神)、外来研修1ヶ月(沖縄協同病院2週間・中部療育医療センター2週間)
- 希望者には2年目で総合診療の代わりに離島研修を選ぶことも可能
- 希望者には県立中部病院を1-2ヶ月研修することも可能
県外の希望施設に1ヶ月間研修(国立成育医療センターも可能)

外来診療

- 検診精査・不定愁訴・Common Diseases/Common Conditionsの外来
新患外来1単位/週、フォローアップ1単位(半日)/週を年間通じて行う
- 今年度より内分泌科は外来で診療・教育、感染症研修は選択制

当院から宮古・八重山・本島北部・中部の 地域中核県立病院小児科へ小児科医を育成し派遣



臨床暴露、学会発表、論文作成指導

臨床暴露

- 3年間で小児科専門医取得に必要なすべての分野の症例にまんべんなく臨床暴露でき、症例レポートを仕上げられます。必要な基本および侵襲的手技も十分な数確保できます。

学会発表と論文作成指導

- 年3回の沖縄小児科学会あり。また、沖縄県医師会学会が年2回あり。なるべく両者に1年に1回ずつ発表。この発表をもとに、症例報告を中心として、査読のある雑誌(当院医学雑誌および沖縄県医師会学会雑誌)に十分な指導のもと早期の掲載ができ、専門医資格修得のための条件を満たすことができます。全国学会も参加・発表できる機会があります。

週間スケジュール

- 月・・・7:30~8:20 専攻医主導小児総合外来症例カンファレンス
- 火・・・7:30~8:20 周産期カンファレンス
- 水・・・7:30~8:20 シュミレーション実習
- 木・・・7:30~8:15 専攻医による症例カンファレンス(入院患者)
- 金・・・7:00~8:15 指導医による講義、シュミレーション実習

海軍病院との合同カンファレンス 2か月に1回

その他各サブスペシャリティのカンファレンス多数 2~3か月に1回

PALS講習会 年1回

当直・待遇

●当直:

月6回以内、指導医とともに救急室と病棟両方をカバー
状況によって週末・休日 救急日勤帯応援

●給与

身分:会計年度任用職員

給与:342,000円(3年次)~384,000円(6年次)

※ただし、医学部卒後6年を経過し採用された場合は、上記金額に含まれる初任給調整手当(約8万円)の支給はありません。

※経歴等により、変動の可能性あり。

●時間外勤務手当

【見込み額】当直1回につき 約20,000円~約42,000円※平日、土日祝により異なる。

※初任給調整手当での支給がない場合、1回あたりの金額は異なります。

●その他手当

期末手当、通勤手当(2km以上)、休日勤務手当、退職手当

※要件該当時のみ支給

●休暇

有給休暇:年間10日(1年目)~14日(4年目)

夏季休暇:3日間

3年目は常勤医と給与・保証は同じの臨時的任用医師

- ローテーション開始まもなくはわからないことだらけでも、卒業する頃には離島で診療ができるようになります。
- ワンランク上の小児科研修に挑戦してみませんか？